

2011年9月20日(火) 9:00—9:15

開会挨拶

出井伸之 クオンタムリープ代表取締役ファウンダー&CEO

アジア・イノベーション・フォーラム (AIF) は、今年で5回目を迎える。

今年は、3.11の震災を経て、様相が一変した。東北で被災され、今なお大変な思いをしている皆様にお見舞い申し上げるとともに、これは我々日本人皆にとっての被災だと捉えている。地震、津波、さらにメルトダウンを起こした原発。日本を見舞ったこれらの問題を通じて、日本の良き面も悪き面も明らかになった。

良い面として現れたのは、まず日本の現場力の強さである。ルネサス・コーポレーションという半導体企業の迅速な復興が例に挙げられるように、東北の被災企業のとっさの回復力には目を見張るばかりである。そして、日本人の秩序・助け合いの姿勢には、世界から称賛の声が上がった。

しかし一方で、悪い面も露わになった。まず1つは、政府による事実の開示と説明の欠如である。アメリカ政府が日本在住アメリカ人への原発80km圏外への避難命令を出し、フランス政府が日本在住フランス人避難のための航空券を手配する一方で、日本国民が政府から得ている情報は、節電の必要性の説明程度であった。政府の情報開示は透明性に欠けており、国民に対して「今、何が起きているのか」を説明する責任が果たされていなかった。2つ目に挙げられるのは、政府の長期的なビジョンの欠如である。被災地では、一番現場に接している市町村レベルの長の尽力の結果、予算のあるなしに関わらず、瓦礫の撤去をはじめ、片づけていかなくてはならない作業を着々とこなしている。しかし、政府からの復興ビジョンの提示がないため、瓦礫撤去後の土地には何も手を付けることができず、いまだに放置されたままである。本来であれば復興について議論すべきこの非常時に、政局に時間が費やされ、現場で何をしないといけないかということが忘れられているのではないか。

今回の震災を通じて、明らかになったのは「機敏に動く日本」と「まったく動かない日本」という2つの日本の側面である。なぜこのようなことが起きるのか、今回のフォーラムでは議論をしていきたい。AIF 2011のテーマは「岐路に立つ日本—今こそ次世代のための選択を一」とした。日本語では「岐路に立つ」という差障りない表現にしているが、実際には英語で表現するところの”at the Brink”、つまり「危機に直面する日本」という

ニュアンスである。震災直後に本フォーラムの準備を始めた時には、フォーラムが開催される 9 月には物事は進展しているだろうという楽観があった。しかし、今日の現状を見ると、いまだ状況には進捗が見られないという脱力感に襲われる。

いま日本は、「短期的に、どのように被災地の復興をしていくのか」×「長期的に、復興後の日本をどのようにつくっていききたいのか」という連立方程式を解かなければいけない。そもそも、この連立方程式は震災前から存在していた。中国など新興国の出現により、日本が国際競争力を失っていた時から、本来は大転換をすべく議論を始めるべきだった。そして今回、自然災害というトリガーがあったにも関わらず、現状の議論は 3.11 以前と変わらない。例えば、東北の被災者たちは世界最貧国レベルに落ち込んでいるとまで言われる一方で、政局では、増税や予算手当の議論を延々と行い、お互いを非難している構図は変わらない。また、世界に積極的に支援を求めるという姿勢も不足している。なぜ世界銀行に復興資金の融資を要求しないのか。日本は助ける側に立つことに慣れてしまっているが、今世界に助けを求めずにいつ求めるのであろうか。

最後に、今回のフォーラムで重点をおいて議論すべき 3 つの問題点を提起したい。1 点目は、「自然と共生する国づくり」である。被災地の防波堤や和歌山での洪水による堤防の決壊を見れば明らかなように、日本において人工的に自然災害を防ぐためにつくられたものは壊れていっている。いま、必要なのは自然に対抗するのではなく、共生していくための工夫であり、それに基づいた国づくりである。2 点目は、「欧米発技術の日本化」である。欧米発の技術である原子力発電所のシステムを、そのまま取り入れたゆえに起きた事故を見るに、これまでの姿勢がシステム的な破綻を迎えていることを示している。3 点目に「新しい日本の立ち位置」である。これまでグローバリゼーションの議論は欧米中心のグローバリゼーションについてであった。しかし、これからは中国・インド・ブラジル・インドネシアなどの新興国を中心とした新しいグローバリゼーションの中での日本の立ち位置を模索していかなければならない。この 2 日間のフォーラムでは、これらをポイントとしてディスカッションを進めていき、何らかの動きのきっかけをつくることができればと考えている。 (了)